

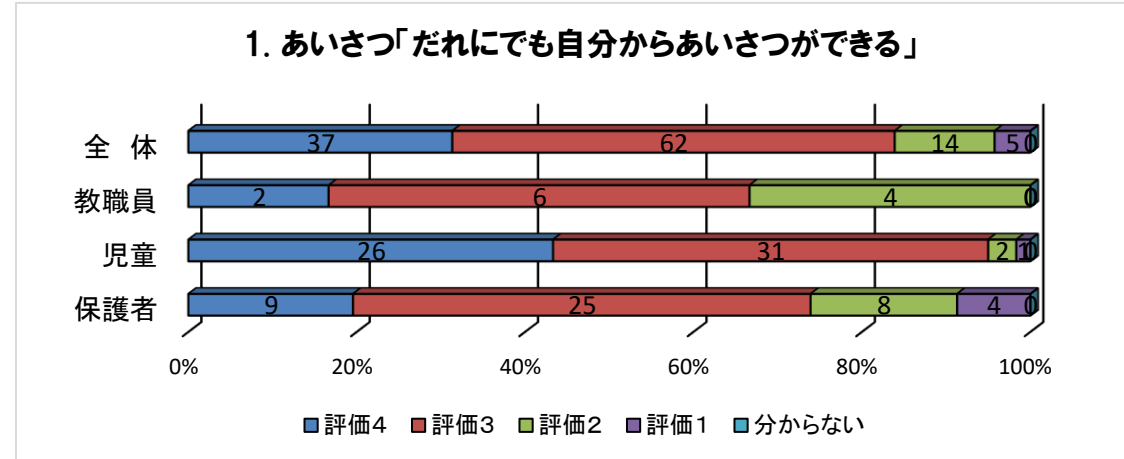
評価4＝あてはまる 評価3＝まあまああてはまる 評価2＝あまりあてはまらない 評価1＝あてはまらない 評価0＝わからない、無回答

学校運営・生活指導・よりよい生活を送るための基本的なことが身についているか

1 あいさつ「だれにでも自分からあいさつができる」

	評価4	評価3	評価2	評価1	分からない	計
保護者	9	25	8	4	0	46
児童	26	31	2	1	0	60
教職員	2	6	4	0	0	12
全体	37	62	14	5	0	118

児童は9割近くがよい評価をしていますが、教師と保護者は児童と異なった評価をしています。感染症対策のため、大きな声を出すことは控えています。下を向いたまま挨拶をする児童も少なくありません。目を見てから、軽く会釈して、「伝える意識」と「自分から挨拶する意識」が持てるようにすることが、今後の課題と言えます。

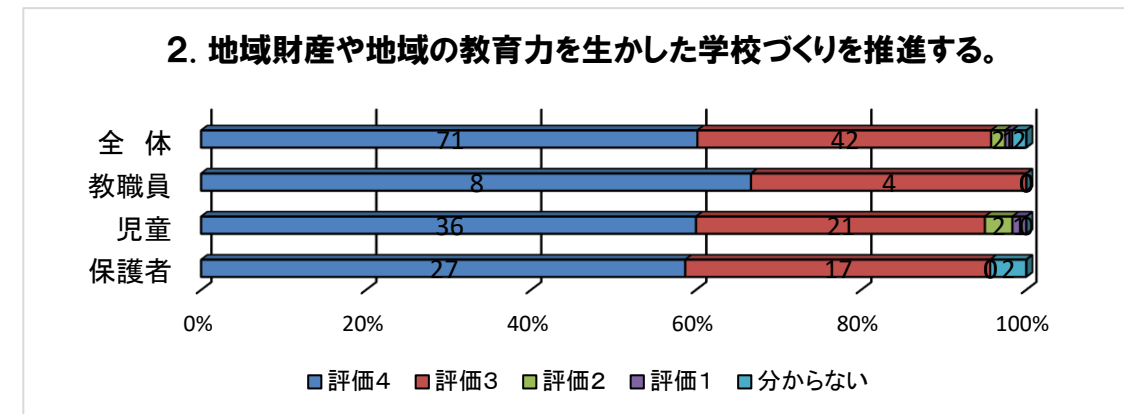


学校運営・開かれた学校づくり・地域の教育力を活用しているか

2 地域財産や地域の教育力を生かした学校づくりを推進する。

	評価4	評価3	評価2	評価1	分からない	計
保護者	27	17	0	0	2	46
児童	36	21	2	1	0	60
教職員	8	4	0	0	0	12
全体	71	42	2	1	2	118

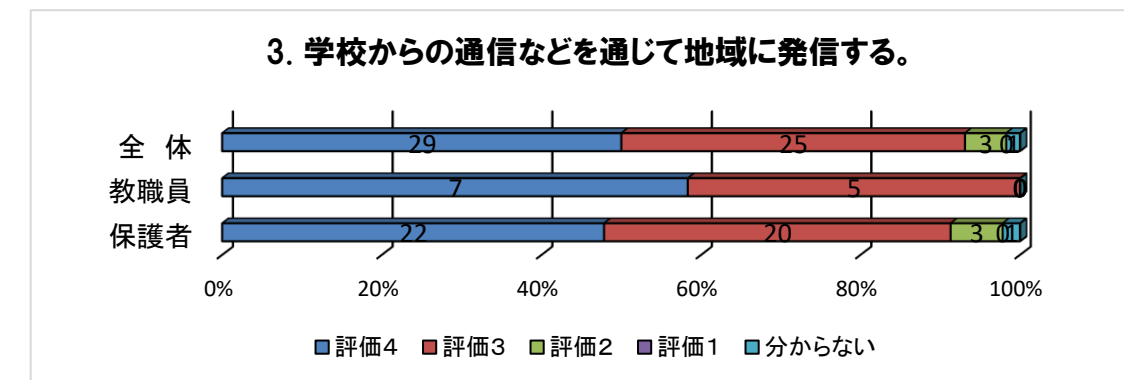
3者とも評価4(あてはまる)評価3(まあまああてはまる)が9割を占めている結果となりました。このことから、コロナ禍においても、各学年で丹波竜や檜皮葺きなど地域の「人・もの・こと」に触れる教育活動を積極的に推進できたと言えます。



3 学校からの通信などを通じて地域に発信する。

	評価4	評価3	評価2	評価1	分からない	計
保護者	22	20	3	0	1	46
教職員	7	5	0	0	0	12
全体	29	25	3	0	1	58

昨年度よりもHPの更新に力を入れ、臨時休業中の情報提供の手段としても活用することができました。併せて、防災無線による下校放送でも、学校の取組や行事を具体的に紹介することで、地域の方に学校の様子を伝える機会となりました。

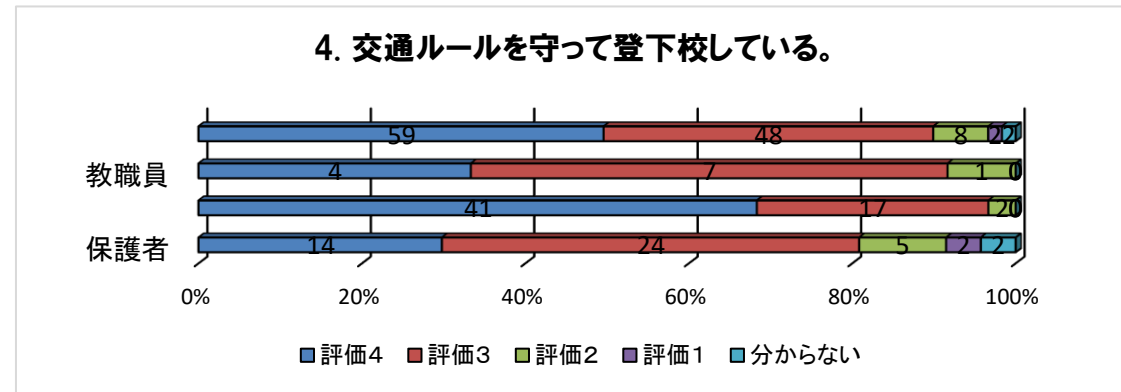


学校運営・安全管理・安全に気がつけた生活ができているか

4 交通ルールを守って登下校している。

	評価4	評価3	評価2	評価1	分からない	計
保護者	14	24	5	2	2	47
児童	41	17	2	0	0	60
教職員	4	7	1	0	0	12
全体	59	48	8	2	2	119

教師と保護者の捉え方が似た結果となりました。児童の評価は高く、安全な登下校について、より具体的な場面を想定した指導を行うことが必要であると感じます。

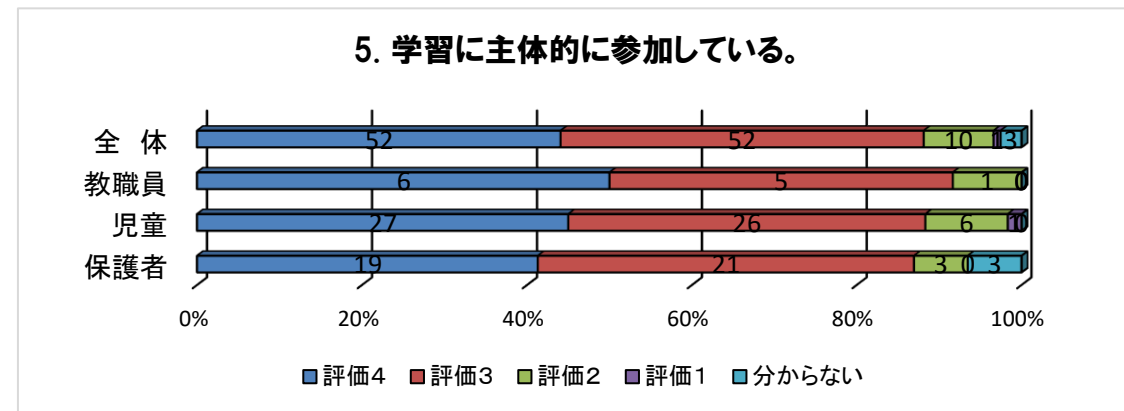


教育課程・学習指導・基礎基本の定着と個に応じた指導

5 学習に主体的に参加し、自分の考えを持ち、すすんで発表し、よく聞いている。

	評価4	評価3	評価2	評価1	分からない	計
保護者	19	21	3	0	3	46
児童	27	26	6	1	0	60
教職員	6	5	1	0	0	12
全体	52	52	10	1	3	118

教師と児童の捉え方が似ています。児童も教師も、主体的に学習に参加できているという実感をもって取り組んでいるといえます。多くの児童が話を聞いて自分の考えを持ち、伝えている様子や、全校集会での感想発表が増えてきた様子などからも、主体的に学ぶ力の向上が図れていると考えます。

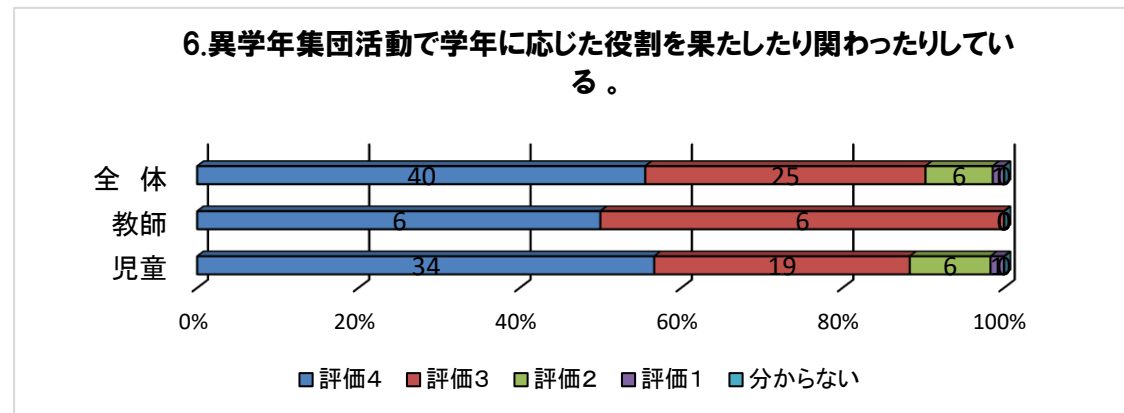


課題教育・人権教育・人権意識の育成

6 異学年集団活動で学年に応じた役割を果たしたり関わったりしている。

	評価4	評価3	評価2	評価1	分からない	計
児童	34	19	6	1	0	60
教師	6	6	0	0	0	12
全体	40	25	6	1	0	72

2者とも、高い評価となりました。業間や昼休みの遊び時間、たて割り班による掃除やジャンボ休みなどで、異学年集団での交流が見られたことが、成果だったと考えます。特に今年は、2年生と5年生がドッチボール対決をするなど、学年同士の交流も自然と生まれていました。今後も、「小さな学校」の強みを生かした教育活動の推進を図ります。

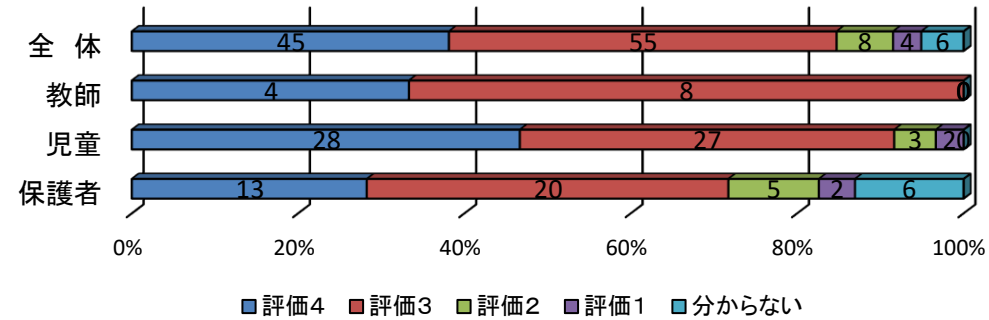


7 周りの人の気持ちを考えて行動する

	評価4	評価3	評価2	評価1	分からない	計
保護者	13	20	5	2	6	46
児童	28	27	3	2	0	60
教師	4	8	0	0	0	12
全体	45	55	8	4	6	118

まあまああてはまるの割合が三者とも多いことから、おおむねできているという実態が読み取れます。自分のことだけではなく、周りの人のことも考えるためには、普段の生活や授業の中でも指導が必要であると考えます。「あてはまる」が増えるように今後も学級経営等で指導していきます。

7. 家庭、学校、地域で社会生活上のきまりを遵守する。



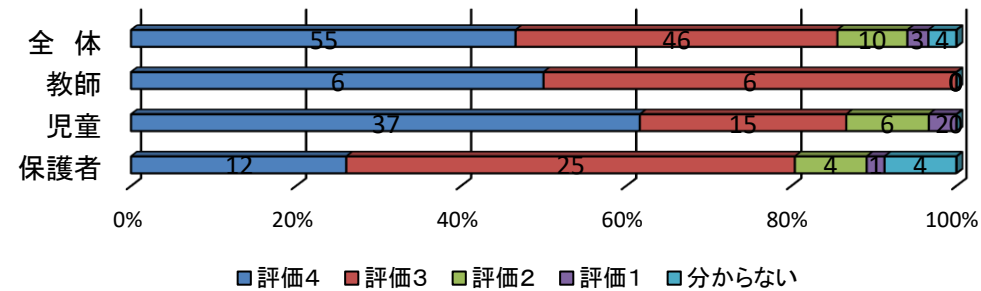
課題教育・人権教育・特別支援教育の推進(個に応じた支援)

8 お互いの特性を理解し、相手のことを考えて行動する。

	評価4	評価3	評価2	評価1	分からない	計
保護者	12	25	4	1	4	46
児童	37	15	6	2	0	60
教師	6	6	0	0	0	12
全体	55	46	10	3	4	118

児童の評価は比較的よい評価になっています。保護者の評価としては、問7と似た結果となっています。今後も、児童と児童をつなぐ学級経営や支援を心がけていきます。

8. お互いの特性を理解し、相手のことを考えて行動する。



コミュニティ・スクール

9 「コミュニティ・スクール」の活動や取組の充実を図る。

	評価4	評価3	評価2	評価1	分からない	計
保護者	9	15	11	1	10	46
児童	0	0	0	0	0	0
教師	0	0	0	0	0	0
全体	9	15	11	1	10	46

コミュニティ・スクールについて「わからない」と回答された割合が昨年度より増え、20%(10家庭)を超えました。今年度より、コミュニティ・スクールを拡充し、地域や保護者の方と一体になって取り組む活動が増えました。毎日の消毒ボランティア、「オリジナル木製遊具」の設置に向けた取り組みを現在も継続して行っていただいています。しかし、コロナの影響もあり、保護者の方に活動の説明をする機会が持てなかったのが、反省点として挙げられます。今後は、周知に力を入れ、さらなる活動の充実を図ります。

9. コミュニティ・スクールの活動や取組の充実を図る。

